



◆2006. 11. 20(月) 発行◆

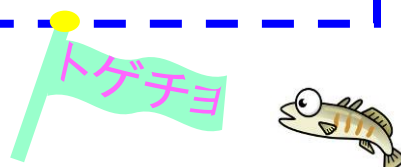
発行「トゲチヨ会津ネットワーク」事務局
国土交通省阿賀川河川事務所工務課
NPO法人会津阿賀川流域ネットワーク
〒965-0830 会津若松市西年貢1丁目7番45号
(社)北陸建設弘済会会津若松支所内

創刊号

本号4ページ

- 設立総会および会長選出・・・1
- 会則および役員について・・・2
- イトヨ現地見学会について・・・3
- イトヨ勉強会およびお願いとお知らせについて・・・4
- 流域学講座第2回 ～子を育てる～

『トゲチヨ会津ネットワーク』設立



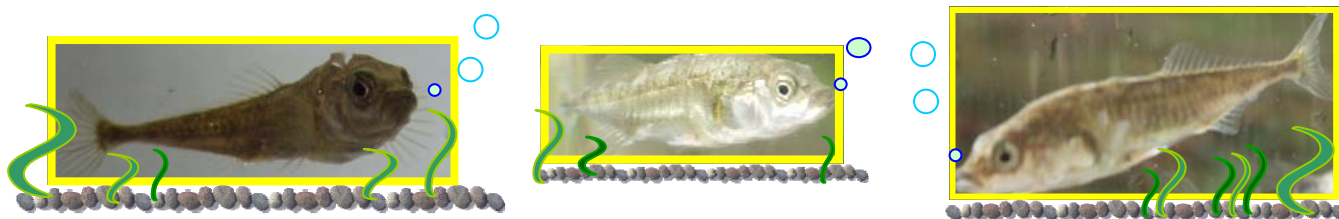
トゲチヨの泳ぐ豊かな清流を！
想いは今ひとつに！

豊かな水に恵まれた会津。そこには清流のシンボルであるイトヨが泳いでいます。近年、急激な社会事情の変化に伴い水環境も変化しました。いつしかイトヨの生息環境も大きく変化しました。

人は、水との関わりの中で産業と文化をはぐくんできました。しかし、人々の生活の変化に伴い、水との関わりは私たちの意識の中で希薄なものとなりました。

結果、水は汚れ、そこに生きるものたちも減ってしまったのです。

このような状況に、かつての会津の豊かな水環境を取り戻し、流域全体の意志によって、清流のシンボルであるイトヨが泳ぐ川を目指し、連携し、組織し、会を発足しました。その会の名は「トゲチヨ会津ネットワーク」です。



トゲチヨ会津ネットワーク設立総会を開催

初代会長に二瓶庄栄氏

【喜多方市高郷町自然を守る会】を選出

去る10月25日(水)、ウェルサンピア会津において、会津阿賀川流域の24の団体・個人が参加し、「トゲチヨ会津ネットワーク」設立総会を開催しました。設立趣意書、会則、平成18年度事業計画など提案された議事4件は全会一致で可決されました。総会終了後、早速「イトヨを学ぶ会(現地見学会、勉強会)」を行うなど、実質的なスタートを切りました。



二瓶庄栄会長

会則・役員が決まる

総会では今後、会の運営をするにあたり、会長および8名の世話人を選出しました。選出された方々は次のとおりです。

会 長；二瓶 庄栄【喜多方市高郷町自然を守る会】

世話人；鈴木 一弘【会津非出資漁業協同組合】

〃 ；会津若松市

〃 ；二瓶 重和【阿賀川・川の達人の会】

〃 ；二瓶 豊久【喜多方市高郷町自然を守る会】

〃 ；福島県会津地方振興局

〃 ；渡部 芳加【南会津町川島地区】

〃 ；国土交通省北陸地方整備局阿賀川河川事務所

〃 ；坂下 諭【特定非営利活動法人法人会津阿賀川流域ネットワーク】

また、会則に基づき、顧問に山中實氏【会津イトヨ研究会】、事務局長に高橋利雄氏【NPO法人会津阿賀川流域ネットワーク】が、二瓶会長よりそれぞれ任命されました。



総会では、国土交通省阿賀川河川事務所長、福島県会津地方振興局長、会津若松市長より挨拶をいただきましたので、その一部を紹介します。



福島県会津地方振興局長(代理；佐藤貞明次長)

福島県では、人と自然との共生を目指した循環型社会に関する条例を制定している。阿賀川流域全体で水環境保全について情報交換をし、水の大切さを啓蒙することは非常に重要なことであり、県としても本会と連携して健全な水環境の構築に取り組んでいきたいと考えている。

国土交通省阿賀川河川事務所 矢田弘事務所長

会津というのは豊かな水文化を育んできたという歴史があり、これまで各地域で実施されてきた水環境保全の取組みをイトヨを通じて流域全体で連携して実施していく契機になれば良いと考えている。この会を通じて地域や住民団体主体の活動を支援していきたい。

会津若松市長(代理；木戸利隆助役)

阿賀川は、我々の生活に多くの恵みをもたらしており、豊かな水環境が守られている。かつて沢山見られたイトヨも今では一部の地域でしか確認できなくなりましたが、次世代の子どもたちに豊かな阿賀川の水環境を伝えていくことが私たちの務めだと考える。本会を通じて、阿賀川流域の地域住民が連携し、水環境を守る輪が広がることを期待している。

『総会で出された意見、決定事項』



1. 流域範囲という表現があるが、流域全体となおしては？
⇒流域全体と修正。
2. 会則について。
⇒異議なしで了承。
3. 平成18年度事業計画について
⇒異議なしで了承。
4. 会運営の経費はどうするのか？
⇒経費はできるだけかけず、助成金や委託発注を受けて運営したい。
5. 副会長を置かなくてもよいのか？
⇒当面、選任された人たちに頑張ってもらうことを第一としたい。
6. 役員について。
⇒原案どおり了承。

イトヨ を学ぶ会

総会終了後、イトヨ生息地の現地見学会を行いました。見学会には、37名が出席しました。生息地では、地元の関係者の方々から詳しい説明を聞くことができました。

～ 現地見学会 ～ 下郷町生息地

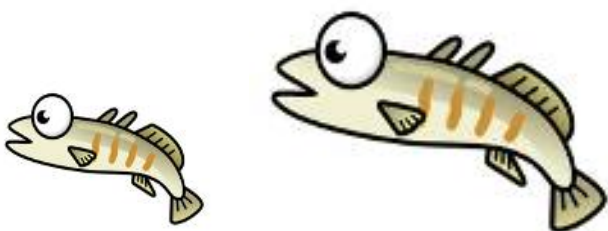


ここでは・・・

- この豊富な水はその多くが伏流水である。
- イトヨだけでなく、貴重なミクリ、バイカモなどの植物も多く生育している。
- 水温は通年ほぼ一定のようだ。
- 環境としての変化はあまりない。
- 地元の人にも、ここにイトヨが生息していることは、あまり知られていない。
- 現在の生息個体数は昔の1／10程度だと思う。その原因は盗られたと思う。
- この場所を他に知られたくない。たぶん、盗られてしまう。

以上のような貴重で切実な地元からの説明がありました。

この場所では、下郷町役場の玉川武之さん、南会東部非出資漁業協同組合の永峯武男さんから説明をいただきました。ありがとうございました。



～ 現地見学会 ～ 南会津町生息地

続いて見学会は南会津町に移動しました。現地は、荒海川（阿賀川）の旧河道でヤナギやアカマツ林の中にあるとても景観のよいところでした。



ここでは・・・

- イトヨの生息地としては世界でも最高の高さ（標高600m）に生息するイトヨではなかろうか。
- 水中の植物も周辺の植物もイトヨの生息には必要である。
- 産卵は、春3月頃より始まると思う。
- 出水時でも水は濁らない。伏流水でまかなわれている。
- 保全は、過去に水位が下がり、小さな湧水箇所にもイトヨは生きていた。その時からイトヨの保護がはじまった。
- 保全活動としては、大きな手は加えてない。地域の人みんなで話し合い、監視している。
- ここでは中学校の総合学習でも取り上げられている。
- 他にもイトヨの生息箇所はかつては多くあったが、今では激減してしまった。

この場所では、南会津町役場の鈴木忠男さん、南会津町川島地区の渡部芳加さんと室井藤夫さん、顧問の山中實先生よりいろいろな説明をいただきました。

また、地元の方は、早くから観察会のためにいろいろと準備をしていただき、非常に良い観察ができました。ありがとうございました。

イトヨ を学ぶ会 ～ イトヨ勉強会 ～

当日は、総会および現地見学会の後、イトヨ勉強会を行いました。勉強会は南会津町さんのご好意により庁舎をお借りして、山中實先生（顧問）のお話がありました。なお、勉強会の開会に際し、南会津町長さん（代理：助役さん）よりご挨拶頂きました。

挨拶：

「人と水との関わりを見つめ直す貴重な取組みである。希少なイトヨを核に様々な取組みを実施していくことは非常に有意義なことである。一方で、乱獲の対象となることも危惧する。今後、この会の活動が着実に進むことを期待しています。」



山中實先生（顧問）による勉強会

イトヨの分布・生態などに関してのとてもわかりやすいお話しでした。

- トゲウオ科には、イトヨをはじめ多くの種類がいる。
- イトヨでは、型というものがある。
- 巢はオスのみがつくる。
- 巢はなかなか見えない。
- 稚魚の成長過程について説明。
- 繁殖期には、赤色の物に対して攻撃的になる。
- 南会津地区生息するイトヨは最高標高地のイトヨである。
- イトヨの飼育法について説明。



質問：イトヨの卵数はどのくらい？

回答：150～200粒の卵を産みます。



新聞記事

報道の一部をご紹介します。

絶滅危惧の小魚
イトヨの生態環境守ろう

「トゲチヨ会津ネットワーク」発足

阿賀川流域の自治体、団体
情報交換し活動

フォーラムなども開催へ

イトヨの保護を誓った設立総会

会津地方に生息し絶滅が危惧（○）されているイトヨ（トゲチヨ）の保護と水環境の保全を目指す「トゲチヨ会津ネットワーク」が二十五日設立された。会津若松市のワエルサンプラザで設立総会を開き、会長に二瓶庄栄喜多摩市郷町自然を守る会会長を選んだ。イトヨは体長五～八センチの小魚で、背中にトゲがあることから会津地方では「トゲチヨ」の愛で親しまれている。会津地方の阿賀川流域は豊かな水に恵まれている。清流のシンボルであるイトヨが生息できる環境を保全し、各自治体や団体が情報交換して活動に取り組むためにネットワークを設立した。流域の自治体や漁業組合、NPO、個人が参加した。総会では会則を決めた後、事業計画として情報交換を進めながら会津フォーラムの開催、ホームページや機関紙で情報発信を行っていくことを決めた。このあと、下郷町や南会津町のイトヨ生息地を訪れて見学した。さらにイトヨの生態について学ぶ勉強会を開き、イトヨについて理解を深めた。

06.10.27 福島民報

● お願い ●

本年度事業計画において「イトヨフォーラム」を実施することとしています。フォーラムの実施にあたり、要望などありましたら事務局までご連絡ください。

● お知らせ ●

阿賀川河川事務所では、今年度管理区間において、イトヨの生息実態調査を行っております。最終調査予定日が11月27日（月）～29日（水）ですので、興味のある方は担当までご連絡ください。詳細をお知らせ致します。

阿賀川河川事務所工務課

TEL：0242-26-6851 担当：馬場

あががわ

流域学講座

第2回

子を育てる

巢をつくり子を育てる魚は？と問うと誰もがイトヨと答える。しかし、バスと答えるとナニそのバスって…となる。バスとは外来魚のオオクチバス、コクチバスのこと。外来魚で引く力が強く、釣人にはたまらない魅力をもっている魚、それがバス。

外来帰化生物法とかなんとかで法に縛られ、早く消えろと言われている種。ナニも好きでこんな島国に来たわけではない。連れられて来ただけ。つまり拉致である。

バスもイトヨと似て産卵数は数百粒。卵が孵化し、そのうち約26日の間、雄は子を守る。同じ子育てをしてもイトヨのように希少だ、大切だと言われるものと、かたや早く消えろと言われるもの。明るいゴールを目指す努力のできるものと死を意味するゴールに飛びこまねばならぬもの。人間の強い快楽が自然や生命を壊していく…。

（坂下 諭）